

団体ヒアリングの 結果報告について

調査の概要

- ▶ ヒアリング事前質問シートを配布し、記入いただいた上で団体ごとに聴き取り調査を実施
- ▶ 令和8(2026)年5月に実施
- ▶ 障がい者関係団体等 7 団体
 - 富田林市身体障がい者福祉協会
 - 富田林市視覚障がい者福祉協会
 - 富田林市身体障がい者福祉協会 聴覚障がい者部
 - 前富田林市知的障がい児（者）父母の会
 - コパンの会
 - 特定非営利活動法人 富田林ほっこり会
 - 特定非営利活動法人 COLORS

1 障がい者を取り巻く環境 (理解・啓発など)

- ▶ 障がいに対する社会の理解は以前と比べて着実に進んでいるとの意見が多く聞かれました。一方で、発達障がいや精神障がい、知的障がいなど外見から分かりにくい障がいへの理解は依然として十分ではありません。障がい理解は啓発だけでなく、幼少期からともに学び、遊び、地域で自然に関わる経験の積み重ねが重要であるとの意見が多く聞かれました。

2 生活支援・生活環境

- ▶ 本人や家族の高齢化、親亡き後の暮らしへの不安が最も大きな課題として挙げられました。住まいそのものだけでなく、見守りや生活支援を含めた支援体制の充実が求められています。高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりが重要です。

3 教育・療育

- ▶ 教育や療育の環境は改善しているとの評価が多く聞かれました。一方で、不登校や進学・卒業時の環境変化への不安も語られています。インクルーシブ教育を進めながら、一人ひとりの状況に応じた学びの保障も必要とされています。

4 文化芸術活動・スポーツ等

- ▶ 文化芸術活動やスポーツは、生きがいづくりや仲間づくり、健康維持に重要な役割を果たしています。一方で、付き添い支援や移動手段の不足により参加機会が制限される場合もあり、参加しやすい環境整備が求められています。

5 雇用・就業、経済的自立 の支援

- ▶ 就労環境は改善しつつありますが、職場での合理的配慮や障がい理解には課題が残っています。就職だけでなく、働き続けられる環境づくりや多様な社会参加の場の確保が重要であるとの意見が多く聞かれました。

6 保健・医療

- ▶ 高齢化に伴う医療ニーズの増加や障がい特性に応じた医療体制の充実が求められています。医療機関における情報保障やコミュニケーション支援の必要性も指摘されており、医療と福祉の切れ目ない連携が重要です。

7 情報アクセシビリティ

- ▶ 情報アクセシビリティは最も多く意見が出されたテーマの一つでした。字幕、手話、要約筆記、点字、音声化など障がい特性に応じた情報保障が求められています。デジタル化による新たな情報格差への対応も課題です。

8 安全・安心

- ▶ 災害時の避難や情報取得に対する不安が多く語られました。障がい特性に応じた避難支援や個別避難計画、避難所での配慮が求められています。平常時から地域とのつながりを築くことの重要性も指摘されました。

9 差別解消と権利擁護

- ▶ 障がい理解は進んできているものの、障がい特性への理解不足による困難は依然として残っています。合理的配慮の考え方をさらに普及し、地域の中で自然な交流を積み重ねていくことが重要とされています。

10 福祉サービス利用

- ▶ 福祉サービスの種類や事業所は増加していますが、人材不足により利用しづらい状況もみられます。サービス量だけでなく支援の質や専門性の向上、将来を見据えた相談支援の充実が求められています。

11 重点的に取り組むべき課題

- ▶ 親亡き後支援、高齢化への対応、移動支援、情報保障、人材確保、相談支援体制の充実などが共通課題として挙げられました。障がい種別を超えて、地域で安心して暮らし続けられる環境づくりが求められています。

12 その他（全体総括）

- ▶ 団体活動を支える人材の高齢化や会員減少への不安が語られました。また、同じ立場の人同士がつながる場や居場所の重要性も再確認されました。障がいのある人が地域で当たり前暮らし続けられる共生社会の実現が共通の願いとなっています。